

# Emergency Grant Aid for the Reconstruction of Iraq

イラク復興支援のための緊急無償資金協力

— 日本政府の取り組みと実績 —

JICS

2009年8月



< 供与された警察車両とイラク警察官 >

## 担当者レポート

## 困難な道のり 警察車両の輸送と復興の実現

**「警察車両輸送オペレーションは、本日無事に完了！」** 2004年10月6日、イラクの隣国ヨルダンで本件の調整・監理のため派遣されていた職員から東京本部に一報が入った時、イラク・プロジェクトスタッフが

安堵の表情を浮かべた。警察車両供与案件は、日本政府にとって、イラク向け緊急無償資金協力における最初のプロジェクトだった。



< 供与された警察車両 >

### 1. チームとして

武装勢力が跋扈するイラク国内を輸送し、無事に1150台の警察車両を送り届ける-今回のオペレーションのカギを握ったのが、警護つき輸送の実施だった。

輸送計画に際して、警備会社との交渉では、テロ攻撃に関連する専門用語が頻繁に飛び交い、これから始まるオペレーションの難しさを予感させた。

輸送オペレーションに備え、日本政府、JICS、サプライヤー、輸送会社、警備会社ら関係者間で輸送プランの詳細についてのミーティングを実施した。当初、イラク国内における治安状況について、輸送業者と警備会社の認識が大きく異なっていた。議論を進めていく中で、それぞれの意見・考えを交わし、個々の役割を理解し、全員が「1つのチーム」であることを再認識し、オペレーションに向かっていくこととなった。利害を超え、全員が同じマインド・ベクトルに向かうための調整役としての役割がJICSに求められた。

### 2. 昼夜を問わずの調整・対応

警察車両は陸揚げ港(ヨルダン国アカバ港)に続々と到着し始めていた。同港からイラク国境まで輸送され、警護チームと合流した後、バグダッドまで輸送される行程である。輸送オペレーション開始後、JICS イラクチー

ムは輸送スケジュールの管理、イラク国境での通関、輸送実施中のコンボイ・トレース、関係者への連絡・報告、治安情勢の評価と監視、イラク側の受取手配など、同時並行で実施する膨大な業務に日々忙殺された。さらに、イラク国内の宗教デモ、米軍による国境封鎖など、突発的なできごとが度重なり、イラク・プロジェクトの面々は昼夜を問わず調整・対応を行った。

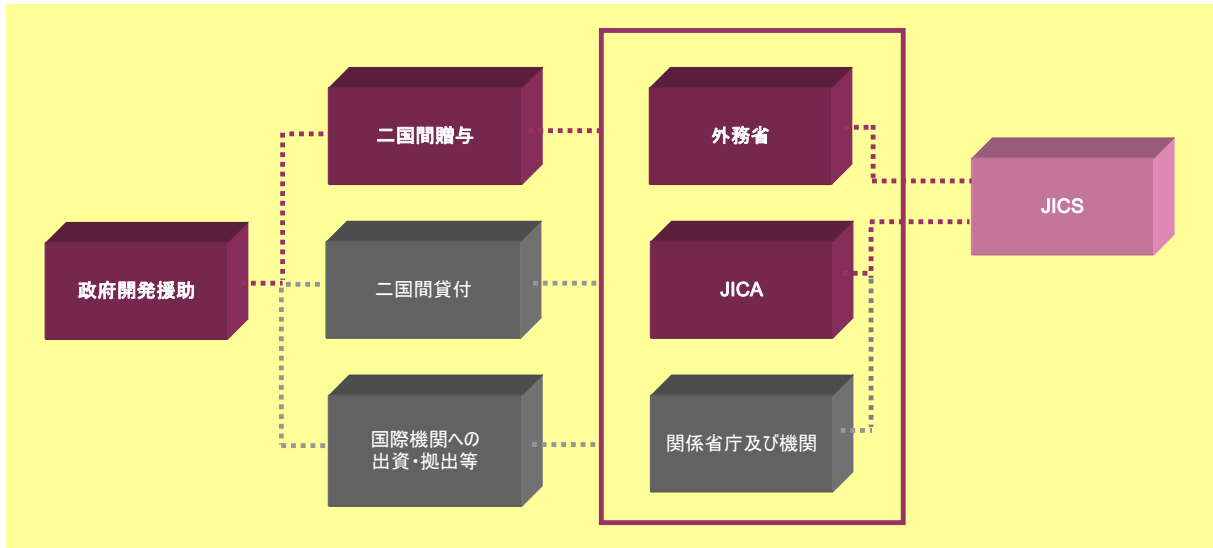


< 警護つき輸送コンボイ >

### 3. 復興を実現するために

イラク国内では今日もテロにより傷つく人や最愛の人を失う人がいる。TVニュースで私たちのオペレーションによってイラクに届いた警察車両が、治安維持のために活躍している様子が映し出されると、困難の連続であったプロジェクト完了の満足感を思い出すと同時に、悲しい気持ちになる。

イラク復興への道のりは遠く、いつ実現できるのかは誰にもわからない。時には自分達の無力感さえ感じることがあるかもしれない。しかし、イラク復興を望む多くの人々、それを支える多くの人々とともに、イラク復興に関与しているという喜びと誇りをもって、これからも支援に従事していきたい。



わが国は、政府開発援助（ODA）を通じた国際社会への貢献を重要な政策として実施しています。これは国際社会から、わが国に寄せられる最も大きな期待のひとつであり、わが国は、これに応えていくべく、その役割と責務を十分に果たしていく必要があります。

ODAの中でも無償資金協力事業と技術協力事業は、顔の見える援助として重要な役割を担っています。これらの事業の推進を積極的に支援するために、公的

な支援機関として1989年4月に財団法人日本国際協力システム（JICS）は設立されました。

JICSは中立、公正な調達専門家集団として無償資金協力事業及び技術協力事業の適正かつ効率的な実施促進をするために様々な活動を行っています。

この20年間、ODAを取り巻く環境も大きく変化してきました。政府予算は当初の拡大基調から縮減基調となり、限られた予算をより効率的・効果的に実施することが一層強く求められる時代となっています。他方で、開発戦略を巡る援助潮流において、ミレニアム開発目標、貧困削減、人間の安全保障、平和構築といった新たな課題が提示される中、わが国に対する国際社会の期待は一層増大していると言えます。

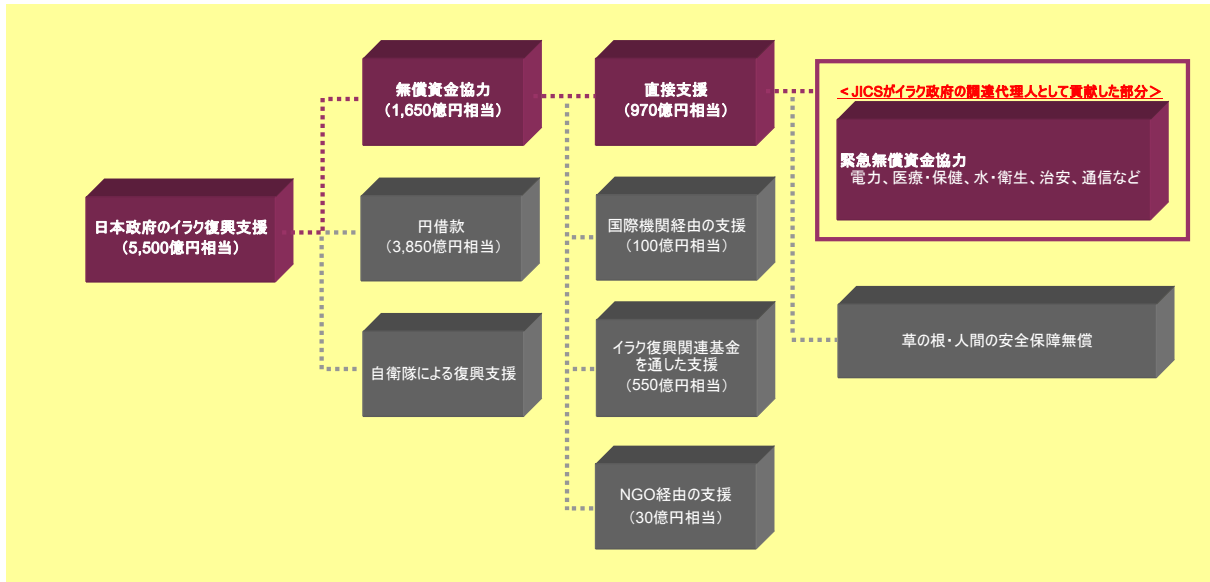
こうしたODAの新たな動きに伴い、JICSの業務は年々多様化してきました。

近年においては、アフガニスタン、イラク、カンボジア、シエラレオネ等における復興支援や平和構築支援分野での事業が急速に増大し、JICSはこれに積極的に取り組んできました。

JICSは今後も日本の人々、世界の人々から信頼される機関として、皆様の一層のご理解とご支援を得つつ業務を実施して参る所存です。JICSの活動に対する皆様のご理解がさらに深まることを願っています。



< 供与された救急車 >



2003年4月フセイン政権が崩壊し、イラクにおける人道、復旧・復興支援ならびに、安定および安全の回復への貢献について安保理決議で採決され、国連加盟国に対して要請されました。

これを受けて、2003年10月23~24日にイラク復興国際会議がマドリッドで開催され、73カ国20国際機関、13のNGOが出席し、2007年までに有償及び無償で総額330億ドル以上の復興支援がブレッジされました。

わが国は、この会議の共同議長国として、イラク復興に対する当面の支援で、総額15億ドル(約1160億円)の無償資金協力と35億ドル(約3850億円)の有償資金協力(円借款)を発表しました。これらの政府開

発援助(ODA)による資金・物資の支援は、サマワに派遣された自衛隊による人的貢献とともに、「車の両輪」として、日本ならではの復興支援を実施してきており、次々と支援による成果が実を結びつつあります。

JICSは、日本政府の無償資金協力の分野において、電力、医療・保健、水・衛生、治安、通信などの緊急無償案件で、イラク政府に代わりプロジェクトの実施監視と予算監視を行うための調達代理機関(エージェント)として、イラクの復興支援に関わっています。



<警備つき輸送コンボイ>



### 3-1. JICS の活動概要

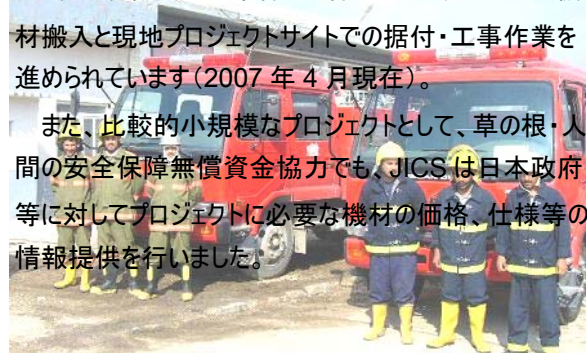
JICS は、イラクへの無償資金協力の中でも、日本がイラクに対して直接支援を行う分野で活動しています。

日本政府の推薦の下、イラク政府と調達代理人契約を締結し、プロジェクトにおける資金管理、物資やサービスの調達、プロジェクトの実施監理などを行っています。その進捗状況については、適宜、イラク政府ならびに日本政府に報告しています。

2004 年にイラク側への機材引渡しを完了した「警察車両供与計画」を皮切りに、JICS はイラク政府の調達代理機関となり、機材調達案件 9 件と施設リハビリ案件 11 件、平和構築無償案件 1 件の調達業務・資金管理を実施しています。機材調達案件および平和構

築無償案件では、10 案件全て、当初計画分のイラク側への機材引渡しとサービスの提供が完了しました。また、施設リハビリ案件でも、「移動変電設備整備計画」が 2006 年に当初計画された設備を据付完了した他、その他の施設リハビリ案件 10 件について、イラクへの機材搬入と現地プロジェクトサイトでの据付・工事作業を進められています(2007 年 4 月現在)。

また、比較的小規模なプロジェクトとして、草の根・人間の安全保障無償資金協力でも、JICS は日本政府等に対してプロジェクトに必要な機材の価格、仕様等の情報提供を行いました。



<サマーワ市に供与された消防車とイラク消防団員>

#### JICS がイラク政府の調達代理機関として携わった案件

案件名		E/L 日	被援助機関名	日本からの供与額
緊急無償 (機材調達案件)	警察車両供与計画	04.01.16	内務省	31.0 億円
	消防車両供与計画	04.05.12	内務省	21.9 億円
	防弾車両供与計画	04.09.09	内務省	5.9 億円
	警察用バスおよびオートバイ供与計画	05.01.01	内務省	26.2 億円
	救急車両供与計画	05.01.01	保健省	58.3 億円
	ゴミ・下水処理特殊車両整備計画	04.09.29	バグダッド市	26.2 億円
	ゴミ・下水処理特殊車両整備計画	04.08.28	都市・公共事業省	36.4 億円
	ゴミ処理機材供与計画	05.01.13	サマーワ市民生局	6.6 億円
	プライマリーヘルスセンター機材供与計画	05.01.13	ムサンナ県保健局	8.7 億円
緊急無償 (施設リハビリ案件)	移動式変電設備整備計画	04.06.01	電力省	79.4 億円
	モスル水力発電所緊急復旧計画	04.09.25	電力省	56.8 億円
	モスル・ガスタービン発電所緊急復旧計画	04.09.25	電力省	45.9 億円
	タジ・ガスタービン発電所緊急復旧計画	04.09.25	電力省	72.8 億円
	サマーワ大型発電所建設計画	05.07.18	電力省	127.0 億円
	南北基幹通信網整備計画	04.10.13	通信省	71.5 億円
	市外電話交換網整備計画	04.10.13	通信省	36.0 億円
	浄水設備整備計画	04.06.03	バグダッド市	60.7 億円
	南部地域主要病院整備計画	04.06.22	保健省	55.6 億円
北部地域主要病院整備計画	04.10.02	保健省	75.3 億円	
中部地域主要病院整備計画	04.10.23	保健省	50.4 億円	
平和構築無償	ムサンナ県警察訓練プログラム	05.09.20	ムサンナ県警察局	3.8 億円
合計				956.5 億円

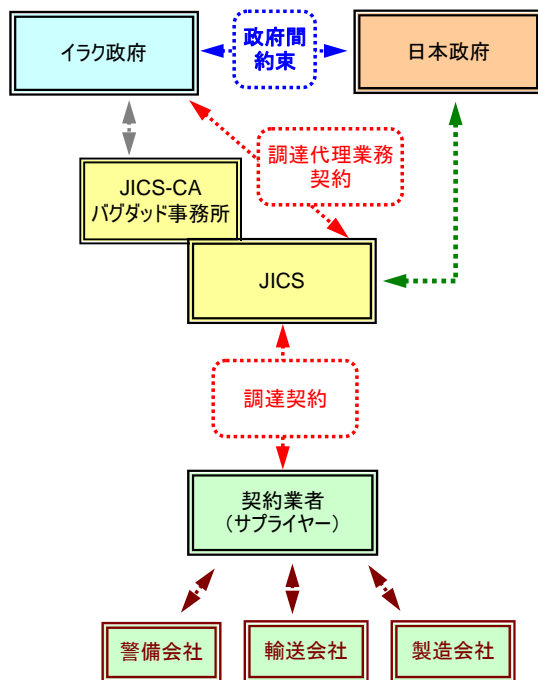
### 3-2. 実施体制とJICS の役割

イラクへの支援開始から現在に至るまで、安全上の観点から「日本人は現地に入れない」という大きな制約を受け、JICS はイラク復興支援の「前線拠点」としてヨルダンの首都アンマンに「JICS 事務所」を設置し、実施監理、入札の実施、関係機関との連絡・調整にあたってきました。

また、イラク国内では、英国の調達機関ク라운・エージェンツ(CA)とパートナーシップ契約を締結して、バグダッドに「JICS-CA 事務所」、バスラに同連絡員事務所を設置し、イラク政府との連絡・調整体制を確保しながら、迅速かつ機動的な活動を行っています。

#### イラク緊急無償資金協力における実施体制

##### 機材調達案件



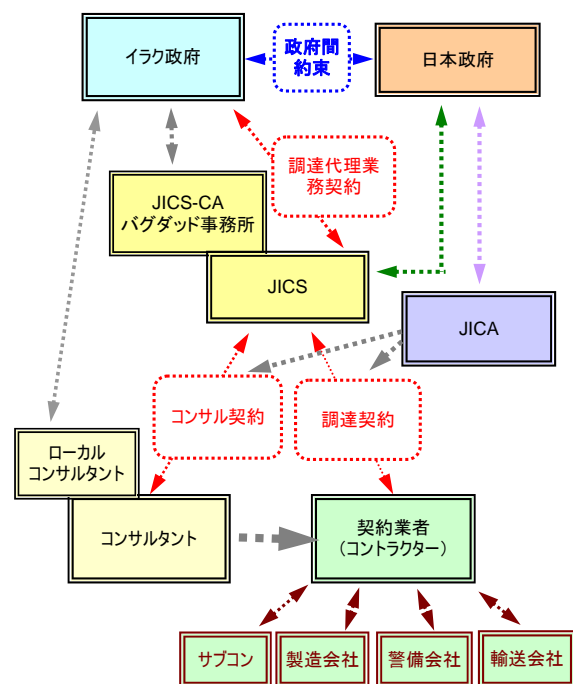
##### JICS の役割

- ✚ イラク政府に代わり供与資金を管理する
- ✚ 案件を設計し、進捗を管理する
- ✚ 入札を実施し、調達業者(サプライヤー)を選定する
- ✚ イラク政府に代わりサプライヤーと調達契約を締結する
- ✚ 出荷前検査を実施するとともに、船積書類の審査を行う
- ✚ 輸送・警備など供給される役務に対する審査を行う
- ✚ サプライヤーに契約代金を支払う
- ✚ 納入後、プロジェクトの完了確認を行う
- ✚ 日本政府およびイラク政府に対し、案件進捗および資金管理に係る報告書を提出する



<JICS で実施された入札会>

##### 施設リハビリ案件



##### JICS の役割

- ✚ イラク政府に代わり供与資金を管理する
- ✚ イラク政府に代わりコンサルタントと契約を締結し、案件進捗を管理する
- ✚ 入札を実施し、契約業者(コントラクター)を選定する
- ✚ イラク政府に代わりコントラクターと契約を締結する
- ✚ 出荷前検査を実施するとともに、船積書類の審査を行う
- ✚ 輸送・警備や施工など供給される役務に対する審査を行う
- ✚ コントラクターに契約代金を支払う
- ✚ 納入および竣工後、プロジェクトの完了確認を行う
- ✚ 日本政府およびイラク政府に対し、案件進捗および資金管理に係る報告書を提出する

##### コンサルタントの役割

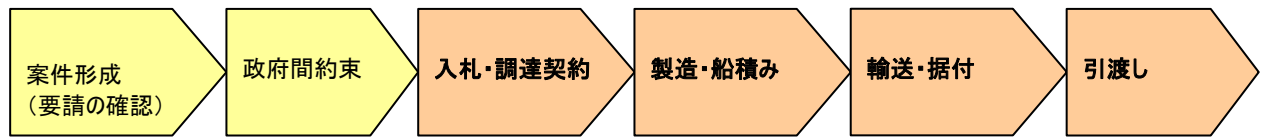
- ✚ 案件の詳細設計調査を実施する
- ✚ 全調達工程において、JICS の役割を補助する

##### 国際協力機構(JICA)の役割

- ✚ イラク政府と JICS に対し、コンサルタントを推薦する
- ✚ 案件の設計変更について、その妥当性を検証し日本政府に報告する
- ✚ 案件の実施促進を行う。

イラクでのプロジェクトは、一般プロジェクト無償やノン・プロジェクト無償と同様に以下の流れで実施されています。この中で JICS は、「入札・調達契約」から「引

渡し」段階まで、調達代理機関としてイラク政府に代わり資金の管理とプロジェクトのトータル・マネージメントを行っています。



### 3-3. イラク向け調達業務の特徴

イラク向けプロジェクトの最大の特徴は、国内の治安が未だ安定していない中、予測不能な事態にも対応できる調達方法を確保しなければならないことにあります。

#### (1) 安全確保のための警護および戦争保険の付保

反政府勢力によるテロ行為や妨害が日常的にイラク全土で繰り返されるなか、日本からの援助物資をイラク国内の納入サイトまで輸送し、案件によっては据付や建設作業を行います。この間、プロジェクト関係者及び援助物資の安全を確保するため、物資輸送時とサイトでの据付作業時に警護チームを配置しています。また、特殊な治安状況のなかで、援助物資の損失や損害を補填するため特殊な保険（戦争保険、テロ対応保険など）を付保しています。

#### (2) 安全対策のための費用の確保および支払い審査

イラクでの調達業務では、テロ行為、道路封鎖、国境封鎖など、不可抗力的な事象により輸送やサイト作業が中断、延期することがあります。予定していた計画を見直すと、場合によっては追加費用（内陸輸送費、警護費、倉庫保管料など）が生じます。これら追加費用を予め想定し、最後まで案件を継続できるよう、安全対策のための費用を確保しています。ただし、実際に支払いを行う際には、追加費用の内容、理由などを審査した上で、妥当と認められたものに対して支払を行っています。

#### (3) 内陸輸送モニタリング

殆どの機材は、国境からイラク国内の納入サイトまで陸路で輸送されます。この間、テロ攻撃に遭遇することが何度もあり、実際に機材が破壊されたり、イラク人警

備員が死亡したという事件も発生しています。調達した機材が納入サイトに確実に届いたことを確認するため、JICS では輸送コンボイがイラク国内に入ってから納入サイトに到着するまで、援助貨物の位置情報など定期的に確認し、事件、事故が発生した場合でも、即座に対応できるよう 24 時間体制で監理・モニタリングを実施しています。

#### (4) 調達契約の方式

イラク案件では治安など不確定要素が多いことから、契約を機材契約と内陸輸送・警護契約の 2 段階に分けています。機材契約（機材費、海上輸送費、据付費）は入札後に契約を締結しますが、内陸輸送・警護契約については、イラク国内の治安が不安定なため、海上輸送が開始される前に改めて費用を再調査し、予算の範囲内であることを条件に契約を締結します。ただし、内陸輸送・警護契約については、実費額を JICS から支払うことで公平性、透明性を確保しています。



< 警護つき輸送の開始前に行われた関係者会議 >

# 事業実績

## JICS が携わった案件の概要と、その後

警察車両供与計画 (機材調達案件)		消防車両供与計画 (機材調達案件)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>●セクター</li> <li>●供与額</li> <li>●政府間合意</li> <li>●実施機関</li> <li>●案件概要</li> <li>●使用場所</li> </ul>	<p>ガバナス (警察行政)</p> <p>3,099,000,000 円</p> <p>2004 年 1 月 16 日</p> <p>内務省</p> <p>○オフロードタイプ警察車両 810 台の供与 (内、370 台は追加分として)</p> <p>○セダンタイプ警察車両 340 台の供与 (内、160 台は追加分として)</p> <p>○自動車整備器具 2 式の供与</p> <p>2004 年に機材は引き渡され、現地のテロ対策等、全土の治安回復のために活用されています。</p> <p>輸送期間中は、たびたび事故に巻き込まれるなど困難の連続でしたが、プロジェクト関係者の昼夜を分かたぬ協力のおかげで、合計 1,114 台の警察車両を無事にイラク側に引渡すことができました。(なお、6 台は輸送中の被害により損失しました)。</p> <p>イラク全域</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●セクター</li> <li>●供与額</li> <li>●政府間合意</li> <li>●実施機関</li> <li>●案件概要</li> <li>●使用場所</li> </ul>	<p>ガバナス (消防行政)</p> <p>2,194,574,000 円</p> <p>2004 年 5 月 12 日</p> <p>内務省</p> <p>○消防車 70 台の供与</p> <p>○はしご車 8 台の供与 (追加分として)</p> <p>2005 年と 2008 年に機材は引き渡され、14 ヶ所の主要消防署に配布されており、現地の消防活動等、全土の防災改善のために活用されています。</p> <p>輸送期間中は、たびたび事故に巻き込まれるなどトラブルの連続で、不幸にも 1 台がテロの被害にあい破損しましたが、結果的に 69 台の消防車をイラク側へ引渡すことができました。</p> <p>イラク全域</p>	
防弾車両供与計画 (機材調達案件)		警察用バス・オートバイ供与計画 (機材調達案件)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>●セクター</li> <li>●供与額</li> <li>●政府間合意</li> <li>●実施機関</li> <li>●案件概要</li> <li>●使用場所</li> </ul>	<p>ガバナス (警察行政)</p> <p>594,284,000 円</p> <p>2004 年 9 月 9 日</p> <p>内務省</p> <p>○防弾車 20 台の供与</p> <p>2005 年に機材は引き渡され、バグダッド市や、メイサン県、ムサンナ県の警察当局に配布されており、要人警護等のために活用されています。供与された防弾車により、遠隔式爆弾 (IED) などの破壊活動から、イラク政府の要人の命を助けた事例なども現地より報告されています。</p> <p>バグダッドおよびサマーワ</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●セクター</li> <li>●供与額</li> <li>●政府間合意</li> <li>●実施機関</li> <li>●案件概要</li> <li>●使用場所</li> </ul>	<p>ガバナス (警察行政)</p> <p>2,621,203,000 円</p> <p>2005 年 1 月 1 日</p> <p>内務省</p> <p>○警察用バス 150 台の供与</p> <p>○白バイ 1,080 台の供与 (うち、600 台は追加分として)</p> <p>2006 年と 2007 年に機材は引き渡され、現地の交通パトロール、犯罪対策等、全土の治安回復のために活用されています。2008 年 2 月にはイラク内務大臣と日本国全権大使の臨席の下、引渡式がバグダッドで行われました。</p> <p>イラク全域</p>	



<p><b>救急車両供与計画</b> (機材調達案件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●セクター 保健医療 (医療サービス)</li> <li>●供与額 5,830,338,000 円</li> <li>●政府間合意 2005 年 1 月 1 日</li> <li>●実施機関 保健省</li> <li>●案件概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>○救急車 962 台の供与 (うち、262 台は追加分として)</li> <li>○修理機材一式の供与</li> <li>○高規格救急車 50 台の供与 (追加分として)</li> </ul> <p>2007 年に機材は全国の病院に配置され、病人の移送等、救急医療の改善のために活用されています。また追加分の機材についても 2009 年中にイラク側に引き渡される予定です。</p> </li> <li>●使用場所 イラク全域</li> </ul> 	<p><b>ゴミ・下水処理特殊車両整備計画</b> (バグダッド市向け) (機材調達案件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●セクター 衛生 (廃棄物管理/処理)</li> <li>●供与額 2,616,718,000 円</li> <li>●政府間合意 2004 年 9 月 29 日</li> <li>●実施機関 バグダッド市</li> <li>●案件概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ゴミ収集車 160 台の供与 (うち、90 台は追加分として)</li> <li>○ブルドーザー4 台の供与</li> <li>○汚泥吸排車 12 台の供与</li> <li>○高圧洗浄車 12 台の供与</li> <li>○エクスカベーター4 台の供与</li> <li>○バキュームダンパー12 台の供与</li> <li>○ホイールローダー24 台の供与</li> </ul> <p>2006 年と 2008 年に機材は引き渡され、バグダッド市のごみ収集等、公共サービスの改善のために活用されています。</p> </li> <li>●使用場所 バグダッド</li> </ul> 
<p><b>ゴミ・下水処理特殊車両整備計画</b> (都市・公共事業省向け) (機材調達案件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●セクター 衛生 (廃棄物管理/処理)</li> <li>●供与額 3,643,036,000 円</li> <li>●政府間合意 2004 年 8 月 28 日</li> <li>●実施機関 都市・公共事業省</li> <li>●案件概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ゴミ収集車 197 台の供与 (うち、153 台は追加分として)</li> <li>○カーゴトラック 20 台の供与</li> <li>○汚泥吸排車 26 台の供与</li> <li>○高圧洗浄車 32 台の供与</li> <li>○クレーントラック 2 台の供与</li> <li>○ダンプトラック 20 台の供与</li> <li>○散水車 20 台の供与</li> <li>○ホイールローダー46 台の供与</li> <li>○エクスカベーター4 台の供与</li> <li>○ブルドーザー18 台の供与</li> </ul> <p>2006 年、207 年および 2009 年に機材は引き渡され、全国の自治体に配備されています。ごみ収集等、全国の公共サービスの改善のために活用されています。</p> </li> <li>●使用場所 イラク全域</li> </ul> 	<p><b>ゴミ処理機材供与計画</b> (サマーワ向け) (機材調達案件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●セクター 衛生 (廃棄物管理/処理)</li> <li>●供与額 657,573,000 円</li> <li>●政府間合意 2005 年 1 月 13 日</li> <li>●実施機関 サマーワ市民生局</li> <li>●案件概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ゴミ収集車 23 台の供与 (うち、8 台は追加分として)</li> <li>○ゴミコンテナ 300 個の供与</li> <li>○ダンプトラック 2 台の供与</li> <li>○ダンパー15 台の供与 (うち、3 台は追加分として)</li> <li>○ブルドーザー2 台の供与</li> </ul> <p>2005 年、2006 年および 2008 年に機材は引き渡され、サマーワ市のごみ収集等、公共サービスの改善のために活用されています。</p> </li> <li>●使用場所 サマーワ</li> </ul> 

ムサンナ県プライマリーヘルスセンター機材  
供与計画 (機材調達案件)

- セクター 保健医療  
(病院・診療所)
- 供与額 866,277,000 円
- 政府間合意 2005 年 1 月 13 日
- 実施機関 ムサンナ県保健局
- 案件概要 ○ムサンナ県 32 ヶ所の診療所への医療機材(41 品目 1,432 台)の供与  
2005 年に機材は引き渡され、ムサンナ県の診療医療の改善のために活用されています。2007 年 5 月に 5 ヶ所でモニタリング調査を行いました。診療を受けた患者数が以前に比べて平均で 28%増加したとの報告を受けております。
- 使用場所 ムサンナ県



移動式変電設備整備計画 (施設リハビリ案件)

- セクター エネルギー(変電所)
- 供与額 7,944,490,000 円
- 政府間合意 2004 年 6 月 1 日
- 実施機関 電力省
- 案件概要 ○老朽化した変電所への移動式変電設備 23 基(132/33KV, 132/11KV)の供与と敷設  
2006 年に施設は完成し、全国の電力事情の改善のために活用されています。日本の支援により、一般家庭約 23 万世帯(約 115~138 万人分)への配電が可能となりました。この結果、周辺地域では、安定的かつ効率的な配電が可能となり、頻繁に発生していた停電が大幅に改善することが期待されています。
- 使用場所 バグダッドを含む 8 県 21 ヶ所



モスル水力発電所緊急復旧計画 (施設リハビリ案件)

- セクター エネルギー(発電所)
- 供与額 5,681,814,000 円
- 政府間合意 2004 年 9 月 25 日
- 実施機関 電力省
- 案件概要 ○既設発電プラント(1 号機、2 号機、3 号機、および 4 号機)の補修と設備更新  
○発電所の運転・保守のための初期トレーニングの実施  
更新作業は 2008 年に完了しました。日本の支援による発電プラントの補修により、一般家庭約 5.2 万世帯(約 26~31 万人分)への配電の増加が期待されています。この結果、周辺地域では、安定的な配電が可能となり、頻繁に発生していた停電が大幅に改善されます。また、今後長期にわたり、発電活動が行えるようになりました。
- 使用場所 モスル





モスル・ガスタービン発電所緊急復旧計画 (施設リハビリ案件)

- セクター エネルギー(発電所)
- 供与額 4,585,765,000 円
- 政府間合意 2004 年 9 月 25 日
- 実施機関 電力省
- 案件概要 ○既設発電プラント(1 号機、および 3 号機)の撤去と解体・整備  
○新規に発電プラント(1 号機、および 3 号機各 2.5 万キロワット)を設置  
○発電所の運転・保守のための初期トレーニングの実施  
なお、発電プラント 2 号機、および 4 号機については、UNDP(国連開発計画)を通して日本の援助資金(25,891,000 米ドル)により、同様に改修工事が行われました。  
2008 年に施設は完成しました。日本の支援(本プロジェクトと UNDP を通じた支援)による発電プラントの改修により、一般家庭約 5.0 万世帯(約 25~30 万人分)に配電ができるようになりました。イラク第二の都市であるモスル市周辺の電力事情の改善のために活用されています。
- 使用場所 モスル



タジ・ガスタービン発電所緊急復旧計画 (施設リハビリ案件)		サマーワ大型発電所建設計画 (施設建設案件)	
●セクター	エネルギー(発電所)	●セクター	エネルギー(発電所)
●供与額	7,278,489,000 円	●供与額	12,701,878,000 円
●政府間合意	2004 年 9 月 25 日	●政府間合意	2005 年 7 月 18 日
●実施機関	電力省	●実施機関	電力省
●案件概要	<p>○既設発電プラント(2号機、3号機、および5号機)の撤去と解体・整備</p> <p>○新規に発電プラント(2号機、3号機、および5号機各 2.5 万キロワット)を設置</p> <p>○発電所の運転・保守のための初期トレーニングの実施</p> <p>なお、発電プラント1号機、4号機、および6号機については、UNDP(国連開発計画)を通して日本の援助資金(25,891,000 米ドル)により、同様に改修工事が行われました。</p> <p>2007 年に施設は完成しました。日本の支援(UNDP を通じた支援も含めて)により、地域の一般家庭約 7.5 万世帯(約 37~45 万人分)に配電ができるまでに復旧しました。この結果、周辺地域では安定的かつ効率的な配電が可能となり、頻繁に発生していた停電が大幅に改善されます。</p>	<p>●案件概要</p> <p>○総出力 60 メガワット(ディーゼルエンジン 15 メガワット×4 基、エンジンタイプ:4 ストローク、燃料:重油)の発電所の新設</p> <p>○既設サマーワ製油所から発電所までの燃料パイプライン(約 6.5km)の布設</p> <p>○発電所の運転・保守のための初期トレーニングの実施</p> <p>2008年に施設は完成しました。建設された発電所により、一般家庭約2万世帯(人口約10~12万人)に配電ができるようになりました。周辺地域では、安定的かつ効率的な配電が可能となり、頻繁に発生していた停電が大幅に改善されることが期待されます。本プロジェクトの発電所の建設により、ムサンナ県全体の電力需要200メガワットのうち、現在ではほぼ半分の電力量に相当する100メガワット(既存40+新規60)が供給できるようになりました。</p>	
●使用場所	タジ	●使用場所	サマーワ
南北基幹通信網整備計画 (施設リハビリ案件)		市外電話交換網整備計画 (施設リハビリ案件)	
●セクター	情報通信(通信線路)	●セクター	情報通信(電話網)
●供与額	7,154,209,000 円	●供与額	3,598,467,000 円
●政府間合意	2004 年 10 月 13 日	●政府間合意	2004 年 10 月 13 日
●実施機関	通信省	●実施機関	通信省
●案件概要	<p>南北間の基幹通信伝送路の修復。既存アナログマイクロ波伝送路をデジタルマイクロ波伝送路に更新</p> <p>2008 年に終了しました。南北基幹デジタルマイクロ波伝送路と、それに接続される中継・市外電話局が整備されることにより、通信不能な状態や地域的に限定的な通信状態が復旧し、電話回線に換算して 145,000 回線のトラフィックが回復することを目標としています。本プロジェクトにより、電話サービスだけでなく、基幹回線につながるテレビ局からのニュースなどの伝送も可能となり、また将来的には、他ドナーが進めている東西基幹通信網や、国際電話通信網、また携帯通信事業との連携も可能となり、通信回線を利用した医療、教育などの多くの分野における社会サービスへの寄与も期待されています。</p>	<p>●案件概要</p> <p>9 都市 10 ヶ所の市外電話交換機の更新。バグダッドエリアに設置された中継・市外電話交換機容量の増加敷設</p> <p>2008 年の施設は完成しました。南北基幹デジタルマイクロ波伝送路と、それに接続される中継・市外電話局が整備されることにより、通信不能な状態や地域的に限定的な通信状態が復旧し、電話回線に換算して 145,000 回線のトラフィックが回復することを目標としています。これにより、南北約 1,000 キロの基幹通信伝送路沿いにある首都バグダッドおよび地方都市の住民が通信できるようになることが期待されています。</p>	
●使用場所	南ルート(バグダッド-バスラ):539km、北ルート(バグダッド-モスル):377km、分岐中継局(バグダッド、シンク、カルバラ、ハジャフサマーラ、ナシリア、シーク、モスル):8 ヶ所	●使用場所	バグダッド、モスル、カルバラ、ヒッラ、ナジャフ、ディウニヤ、サマーワ、ナシリア、バスラ

浄水設備整備計画		(施設リハビリ案件)	南部地域主要病院整備計画		(施設リハビリ案件)
●セクター	水供給(浄水処理)		●セクター	保健医療 (病院・診療所)	
●供与額	6,068,660,000 円		●供与額	5,563,460,000 円	
●政府間合意	2004 年 6 月 3 日		●政府間合意	2004 年 6 月 22 日	
●実施機関	バグダッド市		●実施機関	保健省	
●案件概要	<p>○バグダッド市内に簡易浄水施設(コンパクトユニット)19 基の調達と設置</p> <p>○運転・保守のための初期トレーニングの実施</p> <p>2009 年の施設完成を目指し、現在プロジェクトを実施中です。日本の支援による給水設備の改修により、バグダッド市内の一般家庭約 11~14 万世帯(約 68 万人分)への給水が確保されます。この結果、周辺地域では安定的かつ効率的な飲料水の配水が可能となり、水不足に強いられていた住民の生活が大幅に改善されることが期待されています。</p>		●案件概要	<p>南部地域主要 4 病院内の電気系統・給排水・空調など一般設備の改修および各医局向け医療設備・医療機材の供与</p> <p>2006 年およびは 2009 年に機材は引き渡され、中核病院としての医療・診療サービスの改善のために活用されています。未だ国内で十分な医療サービスが提供できない中において、プロジェクトで整備された病院が地域の重要な拠点病院となっています。</p> <p>プロジェクト実施前後の外来患者数の比較では、以前に比べて 1.4 から 1.8 倍に増えていると報告されています。これは、プロジェクト実施直後の実績ですので、今後さらに診療実績の向上・増加が期待されています。</p>	
●使用場所	バグダッド	●使用場所	ディワニヤ、サマーワ、ナシリア、ナジャフ		



北部地域主要病院整備計画

(施設リハビリ案件)

- セクター 保健医療 (病院・診療所)
- 供与額 7,529,447,000 円
- 政府間合意 2004 年 10 月 2 日
- 実施機関 保健省



●案件概要

北部地域主要 4 病院内の電気系統・給排水・空調設備の施設改修および各医局向け医療機器の供与

2007年に機材は引き渡され、中核病院としての医療・診療サービスの改善のために活用されています。プロジェクト実施前後の外来患者数の比較では、以前に比べて 1.4 から 1.8 倍に増えていると報告されています。

- 使用場所 モスル、ドホーク、キルクーク、エルビル

中部地域主要病院整備計画

(施設リハビリ案件)

- セクター 保健医療 (病院・診療所)
- 供与額 5,044,572,000 円
- 政府間合意 2004 年 10 月 23 日
- 実施機関 保健省



●案件概要

北部地域主要 3 病院内の電気系統・給排水・空調設備の施設改修および各医局向け医療機器の供与

2007年に機材は引き渡され、中核病院としての医療・診療サービスの改善のために活用されています。プロジェクト実施前後の外来患者数の比較では、以前に比べて 1.4 から 1.8 倍に増えていると報告されています。

- 使用場所 アマラ、クット、カドミヤ

ムサンナ県警察訓練プログラム

(平和構築無償)

- セクター ガバナス (警察行政・人材育成)
- 供与額 377,000,000 円
- 政府間合意 2005 年 9 月 20 日
- 実施機関 内務省



●案件概要

英国がイラク南東部 3 県に対し実施している警察訓練プログラムのうち、日本の陸上自衛隊が駐屯するムサンナ県における同プログラムに対する資金供与

2006 年にプログラムは終了し、ムサンナ県の警察活動の向上のために、合計 6,200 人の警察官が研修を受けました。

- 使用場所 ムサンナ県

草の根・人間の安全保障無償プロジェクト

(草の根・人間の安全保障無償)

- JICS 担当業務

平成 15、16、17 年度対イラク草の根・人間の安全保障無償資金協力に係る審査業務(積算等)の補助、および同実施上のコンサルタント業務

○ムサンナ県への給水車両供与  
2003 年に機材は引き渡され、陸上自衛隊の活動と共に、地域住民に対して清涼な飲料水を供給しました。



○ムサンナ県に対する救急車の供与  
2003 年に機材は引き渡され、地域住民への緊急医療サービスに貢献しました。

○サマーワ総合病院緊急医療品供与計画  
2003 年に機材は引き渡され、地域住民への医療・診療サービスに貢献しました。

○ムサンナ県への浄水施設の供与  
2005 年に機材は引き渡され、地域住民の生活向上に貢献しました。

○ルメイサ病院、ヒドゥル病院への医療器材の供与  
2005 年までに機材は引き渡され、地域住民への医療・診療サービスに貢献しました。

○ムサンナー・テレビ局機材整備計画  
2005 年までに機材は引き渡され、地域住民へのテレビ番組の提供などに貢献しました。

○ムサンナ県歯科クリニックへの医療器材供与  
2006 年に機材は引き渡され、地域住民への医療・診療サービスに貢献しました。

○ムサンナ県中央健康検査所への機材供与  
2006 年に機材は引き渡され、地域住民への医療・診療サービスに貢献しました。

○ムサンナ県喘息・アレルギークリニックへの医療器材供与  
2006 年に機材は引き渡され、地域住民への医療・診療サービスに貢献しました。

○ムサンナ県結核クリニックへの医療器材供与  
2006 年に機材は引き渡され、陸上自衛隊の活動と共に、地域住民への医療・診療サービスの提供に貢献しました。

# サイトマップ JICS がプロジェクトで携わった地域

青字：緊急無償(直接支援)  
赤字：草の根無償資金協力



▲ イラク都市・公共事業省からの日本への感謝状



シリア  
設置された通信設備



救急車の活躍 ▲



▼ バトカーの活躍



イラク人技術者へのトレーニング ▲

**ドホーク**  
・北部地域主要病院整備計画

**モスル及びその周辺**  
・ガスタービン発電所復旧計画  
・第一水力発電所復旧計画  
・北部地域主要病院整備計画

**エルビル**  
・北部地域主要病院整備計画

**キルクーク**  
・北部地域主要病院整備計画

**モスル発電所エンジニアへの指導**

**消防車**  
NINAWA

**ゴミ収集車の活躍**

**タジガスタービン発電所のリハビリ**

**シリア**  
設置された通信設備

**供与された防弾車**

**イラク全土**  
・移動式変電設備整備計画  
・ゴミ・下水処理特殊車両整備計画  
・警察車両1,150台の供与(27都市へ配備)  
・南北基幹通信網整備計画  
・電力電話交換機整備計画

**クート**  
・中部地域主要病院整備計画

**アモラ**  
・中部地域主要病院整備計画

**バグダッド及びその周辺**  
・浄水設備整備計画  
・防弾車両供与計画  
・消防車整備計画(写真下)  
・中部地域主要病院整備計画

**バグダッド**

**ナイフ**  
・南部主要病院整備計画

**サムワフ及びその周辺**  
・防弾車両供与計画  
・消防車整備計画  
・南部地域主要病院整備計画  
・サムワフ大型発電所建設計画/JTHANNA  
・ムサンナー県保健所への救急車の給与  
・ムサンナー県水道局への給水車供与  
・サムワフ総合病院に対する医療品の供与  
・ルメイサ病院及びヒドゥル病院に対する機材供与  
・ムサンナー・テレビへの撮影・編集機材の給与  
・ムサンナー県プライマリーヘルスセンター整備計画  
・紛争予防・平和構築無償ムサンナー県警訓練プログラム

**サムワフ大型発電所の建設**

**ナースィリア**  
・南部地域主要病院整備計画

**バスラ**  
・消防車整備計画

**輸送中の建設機械**

**プライマリーヘルスセンターの機材**

**設置させた移動式変電設備**

# 参考

## JICS が携わったその他の緊急無償資金協力案件

### 緊急無償資金協力案件実績

JICS は 1997 年にインドネシア国に対する緊急無償資金協力案件を担当して以来、2008 年までに 8 カ国(アジア、中近東など)の調達代理機関として調達業務を行いました。取扱件数は延べ 37 案件、取扱総額は 989 億円にのぼっています。特に紛争地域における活動も 2001 年のアフガニスタンより開始しており、イラク復興支援など、実績を積んでいます。

### <紛争地域における実績>

JICS は、紛争予防・平和構築無償でも、カンボジアの小型武器回収、シエラレオネの戦争帰還兵士に対する社会復帰プログラム、イラクのムサンナ県警察官訓練プログラムにおいても、調達代理機関として実績を積んできました。

年度	案件数	被援助国	援助額と主な調達品目
1997	1	インドネシア	1.02 億円 医療消耗品など
1998	3	インドネシア, 中国, キューバ	42.50 億円 小麦粉, 医薬品, 医療機材, 消毒薬, 車両, 食品など
2000	2	パキスタン, モンゴル	1.85 億円 医薬品, 医療機材, 救急車, 井戸用ポンプ, 発電機, ガソリン, 小麦粉, 粉ミルクなど
2001	2	パキスタン, アフガニスタン	18.47 億円 テント, マットレス, 毛布, 寝袋, 小麦粉, 必須医薬品キット, 車両など
2002	4	アフガニスタン	2.81 億円 建設機材, ダンプトラック, 給水車, アスファルト, 医薬品, 医療機材, ミニバスなど
2003	3	中国, イラク	6.79 億円 SARS 対策向け医薬品, 警察車両, 消防車など
2004	18	アフガニスタン, イラク	773.87 億円 移動式変電設備, 病院リハビリ, 浄水場リハビリ, ごみ収集機材, 建設機材, 防弾車, 警察用バス, 白バイ, 救急車, 医薬品, 医療機材, 発電所リハビリ, 電話回線リハビリ, 車両, 無線機など
2005	2	パキスタン, イラク	139.86 億円 テント, マットレス, 毛布, 寝袋, 小麦粉, 医療機材, 医薬品, 建設機材, 発電所建設など
2006	1	フィリピン	1.11 億円 必須食品パック
2008	1	メキシコ	0.77 億円 サーモグラフィー, モニター, 三脚など
合計	37		

## お問合せ先

〒162-0067

東京都新宿区富久町 10 番 5 号

新宿 EASTビル 5、6 階

電話: 81-3-5369-6960

ファックス: 81-3-5369-6961

e-mail: nonpro@jics.or.jp

ホームページ: <http://www.jics.or.jp>

